

小学校

平成 12 年 度

# 教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

## 教 育 研 究 員 名 簿

学級活動低学年分科会

	地区	学校名	氏 名	備考
1	品川	三木	高橋 明	
2	荒川	赤土	南里 洋子	□
3	八王子	陶 鎔	中川 昌江	
4	国分寺	第五	大藏 久美	
5	東久留米	本 村	上野 敦史	○

学級活動中学年分科会

	地区	学校名	氏 名	備考
1	墨 田	第三寺島	中山 雅子	
2	板 橋	高島第四	高草木 輝子	
3	練 馬	南 町	島根 麻実	
4	葛 飾	東水元	西村 卓子	□
5	江戸川	小松川	甲田 美穂	
6	府 中	矢 崎	大類 研治	
7	西東京	田 無	石川 功至	○

- ◎ 全体世話人
- 分科会世話人
- 分科会副世話人

学級活動高学年分科会

	地区	学校名	氏 名	備考
1	世田谷	東大原	秋間 正宏	
2	杉 並	沓 掛	増田 潔	◎
3	足 立	皿 沼	星野 典子	
4	八王子	散 田	村越 文美	□
5	小金井	小金井第三	片柳 旭	○
6	武蔵野	千 川	田村 亜紀子	

児童会活動分科会

	地区	学校名	氏 名	備考
1	港	飯 倉	上杉 修一	○
2	江 東	第六砂町	征矢 昌之	
3	大 田	小 池	山田 睦子	□
4	中 野	向 台	木田 明男	
5	青 梅	第 四	浦川 潔	

(担当) 東京都立教育研究所相談部指導主事 中 村 雅 子

# 目 次

I 研究の全体構想	2
1 研究主題	2
2 研究の進め方	3
3 研究の成果	3
(表) 発達段階に応じた研究の内容	2・3
II 集団活動との出会い<低学年>	4
1 低学年分科会主題について	4
2 研究構想図	5
3 研究の内容	6
4 実践事例	8
5 研究のまとめ	8
III 集団活動の広がり<中学年>	9
1 中学年分科会主題について	9
2 研究構想図	10
3 研究の内容	11
4 実践事例	12
5 研究のまとめ	13
IV 集団活動の深まり<高学年>	14
1 高学年分科会主題について	14
2 研究構想図	15
3 研究の内容	16
4 実践事例	17
5 研究のまとめ	18
V 自発的・自治的な児童会活動	19
1 児童会活動分科会主題について	19
2 研究構想図	20
3 研究の内容	21
4 実践事例	22
5 研究のまとめ	23
VI 研究のまとめ	24

## <要約>

本研究は、「望ましい集団活動」を、「個のよさや可能性を発揮するとともに、集団としてのよりよい人間関係をつくることのできる活動」ととらえ、発達段階に応じて自主的、実践的な態度を育てる指導の工夫を目指し、学級活動と児童会活動を中心に研究した。

研究の結果、学級活動及び児童会活動で身に付ける基礎・基本を踏まえ、発達段階に即した指導の手だてを明らかにした。

# I 研究の全体構想

## 研究主題

望ましい集団活動を通して、児童の自主的、実践的な態度を育てる指導の工夫

### 1 主題設定の理由

21世紀を担う子どもたちが、主体的、創造的に生きるためには、自ら課題を見い出し、思考・判断しながら、協力して実践する態度を育てることが大切である。今日、友達とかかわれず集団生活に不適應感を抱く子どもも少なくない実態を踏まえ、特別活動部会では、「望ましい集団活動」を「一人一人がよさや可能性を発揮し、集団としてのよりよい人間関係をつくる活動」ととらえ、発達段階に応じた指導の工夫を目指して本主題を設定した。

学級活動低学年分科会  
集団活動との出会い

学級活動中学年分科会  
集団活動の広がり

分科会主題	みんなでやってみよう！ 一人一人が輝く学級活動	自分たちでつくる 心はずむ学級活動
目指す児童像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団活動の経験を通して、みんなでやってみよう、またやりたいという気持ちをもつことのできる子</li> <li>・ お互いの思いを認め、受け入れられる子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの力でよりよい学級をつくろうとする子</li> <li>・ 自他を認め、お互いに協力し合おうとする子</li> </ul>
研究の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「みんなでやってみよう」という楽しさを味わわせるための工夫</li> <li>②一人一人の思いを認め、生かすための工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①児童自身の気づきを大切に、生かす工夫</li> <li>②一人一人が意欲と自信をもって活動できるような適切な助言の工夫</li> </ul>
研究の重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 集団活動との出会い <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝の会や教科等の授業において、楽しい集団活動に出会う場を設定する。</li> </ul> </li> <li>・ 他の学級や学年の活動を見たり、調べたりする機会を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 議題を広げようとする態度を育てるための工夫をする。 議題を学級全体で受け止め、生かすための指導の工夫をする。</li> <li>② 個と学級集団の実態を把握し、時機を得た助言を工夫する。 よさや課題に気付かせる助言を工夫する。</li> </ul>
研究の手だて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の支援のもとに、話し合いをみんなで協力しながら運営したり、係を分担したりする。</li> </ul>	

## 2 研究の進め方

社会性の発達に関する文献研究や、研究員の所属校の実態に基づく協議をもとに課題を明確化した。さらに、児童、保護者、教師を対象とする調査を実施し、実態をより深く把握・分析し分科会主題を設定した。また、各発達段階に即して目指す児童像と研究の視点を設定し、きめ細かい手だてを工夫するとともに、6年間の指導の連続性を検討した。

## 3 研究の成果

6年間の成長を見据えて研究した結果、低学年では集団活動との出会いの場の工夫や低学年なりの話し合いの運営の仕方を、中学年では議題を広げて自治的な活動を積み重ねること、高学年では学級集団を段階的に高めていく方法を明らかにした。また、児童会では全校児童を視野に入れ、自発的、自治的な児童会を展開する手だてを明らかにした。

### 学級活動高学年分科会 集団活動の深まり

### 児童会活動分科会 全校規模の集団活動の深まり

認め合い、みんなで作る学級活動	自発的、自治的な児童会活動を展開する指導法の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで進んで考え、行動し、高まっていけることができる児童</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで学校生活の充実や向上のために活動できる子</li> <li>互いのよさを認め合える子</li> <li>学校生活の中で課題を見付けられる子</li> <li>全校のための役割を引き受けられる子</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>①「一人一人が尊重され、認め合える学級」づくりの工夫</li> <li>②「よりよく生活するための課題を見つける」ための工夫</li> <li>③「共に協力しながら解決していく」話し合いの活動の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①児童の考えを生かした活動を創る工夫</li> <li>②システム化された活動過程を創る工夫</li> <li>③認め合うための広報活動・評価の工夫</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>①日常生活の中で、個の居場所が広がるような手立てを工夫する。</li> <li>②学習と生活とのつながりを考えさせ、生活向上の意識を喚起する場をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○考えを具体的に表現できる場づくり</li> <li>○めあてを共有できる場づくり</li> </ul> </li> <li>③学級集団の状態を客観的に把握し、段階に即した指導を計画的に行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○学級の段階を把握する方法の研究</li> <li>○段階別「話し合い活動の手立て表」の作成</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①全校児童の声を吸い上げて生かす事前事後のアンケートを実施する。活動内容に軽重をつけた年間計画を作成する。</li> <li>②教師の指導過程をシステム化したモデル案を作成する。児童に活動の手順や見通しを理解させるための代表委員会手帳の作成や掲示物の活用をする。</li> <li>③活動を認め励ます評価を工夫する。活動直後の教師の声かけや、児童間の相互評価を工夫する。</li> </ul>

## Ⅱ 低学年分科会

### 分科会主題

みんなでやってみよう！ ～一人一人が輝く学級活動～

#### 1 主題設定の理由

低学年という発達段階において、児童一人一人は、何事に対しても興味関心が高く、特に楽しい体験や興味深い活動については一生懸命に取り組もうとする傾向がみられる。しかし、自分と教師、自分と友達だけにとどまり、学級という集団の中の一人であるという自覚がもてていない。「自分だけ楽しければよい」という考えもみられトラブルも多い。

低学年の保護者対象に、就学前と現在の友達関係や遊びについて実態調査したところ、何らかの形で友達と遊んでいると答えた割合は予想外に多かった。しかし、遊びの内容を見ると、公園の遊具、自転車乗り、テレビゲーム、ブロックなど個々の遊びが中心であり、集団で人とかかわりながら遊ぶ経験は少ないことが分かった。また異年齢で遊ぶという経験も少ない結果であった。これは、近年の少子化の影響や家の中での遊びを好む子どもが増加している影響であろうと思われる。家庭や地域社会において子どもの人間関係が希薄化し、みんなでやってみる楽しさを十分に味わわないまま小学校に入学してくることが少なくないと推察される。

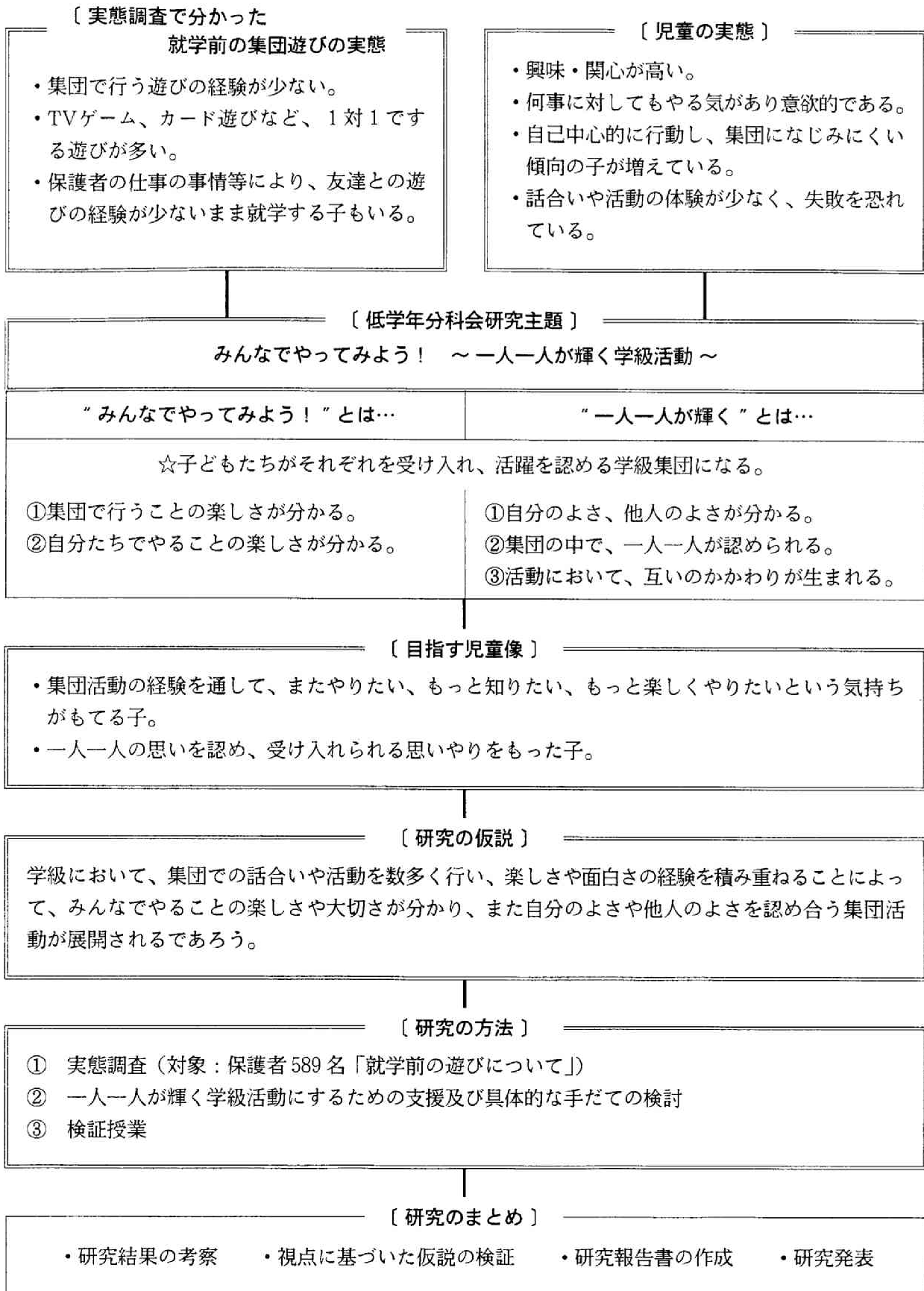
このような実態を踏まえ、小学校のスタートにあたる低学年児童は、楽しいと感じる経験を積み重ねることによって、自分なりの思いや願いをたくさんもつであろうと考えた。また、集団活動の経験の少ない低学年児童に、体験を通して「みんなでやってみる」楽しさや喜びを味わわせることが重要であり、楽しい集団活動を通して、集団の中で自分のよさを発揮し、一人一人が輝くだろうと考えた。

そこで、一人一人の思いや願いが大切にされる温かな人間関係の中で、「みんなでやってみる」という楽しさ、成就感を味わわせることができると考え、本主題を設定した。

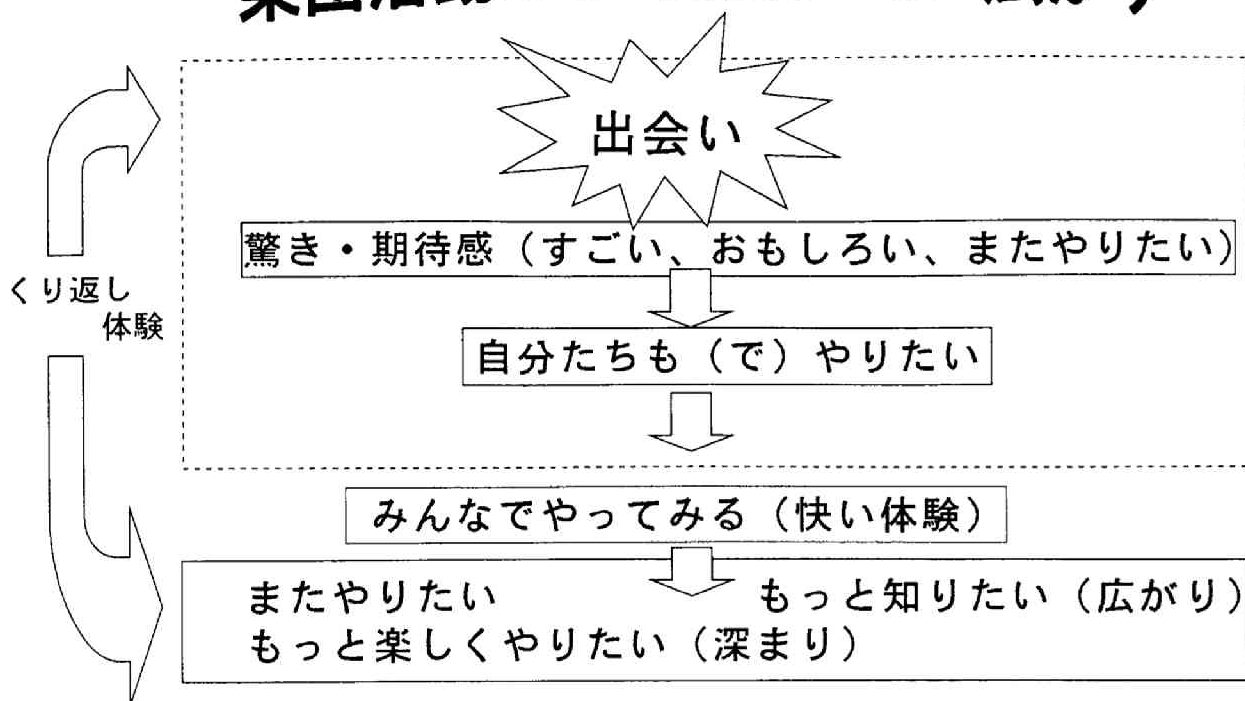
#### <研究の視点>

<p>≪視点1≫ 「みんなでやってみる」という楽しさを味わわせるための工夫</p>	<p>≪視点2≫ 一人一人の思いを認め、生かすための工夫</p>
<p>① 集団活動との出会いと広がり ② 子どものやりたい活動の積み重ね ③ 活動の見通しをもつための工夫</p>	<p>① 友達の意見（話）を聞く工夫 ② 互いの良さを気付かせるための工夫 ③ 学級活動コーナーの設置</p>

## 2 研究の構想図



# 集団活動との 出会い と 広がり



学級集団の状況に応じた出会いの例

## 学級の中で

スタート (集団活動のはじまり)	ホップ (集団活動の広がり)
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 休み時間にクラスみんなで遊ぼう。</li> <li>• 休み時間、みんなで遊ぶ日を決めよう。</li> <li>• 誕生会をしよう。</li> <li>• クラス開きの会をしよう。</li> <li>• 帰りの会で「ありがとうと言いたいこと」を発表しよう。</li> <li>• 帰りの会で、今日一日良かったことを発表しよう。</li> <li>• 班の友達の良いところを見つけよう。</li> <li>• 自分をよく知ってもらうために自己紹介をしよう。</li> <li>• 名刺交換ゲームをしよう。</li> <li>• 帰りの会で、三人の友達とじゃんけんしよう。</li> <li>• 朝、クイズをしよう。</li> <li>• お誕生日の同じ月の人と、一緒に給食を食べよう。</li> <li>• 給食の時間楽しかった話をしよう。</li> <li>• 係りの紹介をしよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の得意技を紹介しよう。</li> <li>• 雨の休み時間、みんなで教室で遊ぼう。</li> <li>• クラスのシンボルマークを作ろう。</li> <li>• クラスの歌を決めよう。(替え歌)</li> <li>• クラスのキャッチフレーズを作ろう。</li> <li>• クラスの旗を作ろう。</li> <li>• 「こんなことができるようになりました会」を開いて、お家の人に見てもらおう。</li> <li>• 2-1の名人大会をしよう。</li> <li>• スライム大会をしよう。</li> <li>• めざせ新記録。空き缶積み大会。</li> <li>• 友達を誘えるおまじないを覚えよう。</li> <li>• お掃除バスターズ。</li> <li>• 仮装大会をしよう。</li> <li>• 隣の学校の友達に手紙を出そう。</li> <li>• 給食の方にお礼の手紙を書こう。</li> <li>• 6年生を送る会の言葉を考えよう。</li> </ul>



## 異学年

- ・ワンツートタイム  
1、2年生による交流遊び（1～2単位時間）（週一回20分休み）
- ・ワンツーランド  
学習発表会でお店（輪投げコーナー、迷路コーナーなど）を1、2年合同のグループで出す。
- ・子どもまつり（4、5、6年生がお店を出す。）
- ・なかよし清掃。なかよし給食。
- ・朝自習にゲームや読み聞かせ。
- ・ブロック活動（異学年交流）  
休み時間や朝自習時に遊んだり、遊ばせてもらう。
- ・交流給食（異学年・同学年）
- ・2年生が1年生の学校探検を案内する。
- ・たてわり活動（つくって遊ぼう、全校遠足）
- ・ロング集会に縦割り班でゲーム大会をする。  
その班で、仲良くなるために中休みに遊ぶ。
- ・1、2年生で、遠足に行く。2年生が1年生の世話をする。事前にグループで顔を合わせ、遊ぶ。

## 全校

- ・1年生を迎える会（ゲームなど）
- ・集会委員会が集会でゲームを月一回行う。

## 同学年

- ・お楽しみ会を学年合同とする。
- ・休み時間の遊びから、かかわりを広げる。

## 学級活動コーナー

- ・活動の紹介、写真など。

ステップ（集団活動の深まり 1）	ジャンプ（集団活動の深まり 2）
<ul style="list-style-type: none"><li>・大水遊び大会をしよう。</li><li>・クラスの良いところを紹介するポスターを作ろう。</li><li>・2年1組オリジナルゲームをつくろう。</li><li>・もちよりビンゴ大会。</li><li>・リサイクルショップ大会（バザー）</li><li>・カラオケ大会をしよう。</li><li>・二人三脚大会をしよう。</li><li>・友達をコーディネートしよう。</li><li>・学校の中に自分の木を決めよう。</li><li>・タイムカプセルをつくろう。</li><li>・2年1組そうじ隊をしよう。</li><li>・係を中心に、工作をつくって遊ぼう。</li><li>・給食の時間、外（屋上）で食べよう。</li><li>・友だち自慢大会をしよう。</li><li>・本を順番に読む。読み聞かせ。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校の中で100人の人と挨拶しよう。（握手・名前）</li><li>・2年1組をデコレーションしよう。</li><li>・クラス内クラブを作ろう。</li><li>・クラスの劇を作ろう。</li><li>・クラスのプロモーションビデオを作ろう。</li><li>・2年生の主張！</li></ul>

## 4 実践事例

議題名「お誕生日会に何をするかみんなで決めよう」(1年)

### <活動の概要>

#### 【事前の活動】

10月のお楽しみ会の後、振り返りカードを書いた。子どもから出された「このつぎやってみたいこと」の中から、今までにやったことのないゲームを紹介することにした。…<出会い>

他にもみんなで楽しめるゲームはないか探偵団になって、他学年に調査に行った。やったことのないゲームは説明したり、やってみたりした。…<出会い>

調べたゲームややってみたいゲームをカードに記入して学級活動コーナーに貼った。

司会グループと教師との間で事前の話合いの時間をもち、「話合い進め方カード」をもとに話合いの流れを確認した。

#### 【話合い活動】

話合い活動をみんなで楽しくやろうという意欲をもたせるためにクラス全員で歌を歌った。司会グループは学級会グッズのペンダントを使い、役割をはっきりさせた。司会グループが友達から認められるよう、また他の子もやってみたいと意欲や自信がもてるように「話合い進め方カード」を用意した。話合う中で友達の意見を最後まで聞こうという姿勢をもたせるために「聞き上手カード」を掲示し、自分で確認できるようにした。



授業の前半に教師が調べてきた集団活動をビデオや写真などで紹介した。…<出会い>

教師が紹介した活動と学級活動コーナーに貼ってあったカードの中から「みんなが楽しめる」ことをめあてに話合った。賛成、反対の意見が出ると黒板書記が賛成マークや反対マークを黒板に付けていった。

話合いの結果、「おぼけやしき」、「ゲーム大会」、「キックベース」決まった。

#### 【事後の活動】

クラスの全員が準備の係を分担した。係分担を決める時、「おぼけやしき」は準備に時間がかかることに気付いて次回のお楽しみ会にやることになり、「ゲーム大会」のゲームも一つに絞った。

## 5 まとめ

### (1)研究の成果

- ・出会いを積み重ねることにより、子どもたちが期待感をもち「やってみたい」という意欲が育ってきた。
- ・学級会で話し合えば楽しいことができたり、自分たち学級がよくなったりすることが分かり、みんなで話し合う大切さが分かってきた。
- ・司会グループ(司会・副司会・書記)との教師との事前の打ち合わせや、話合い活動の最中に教師が援助することによって、一年生なりに役割を果たすことができた。



### (2)今後の課題

- ・教師の話を聞く態度は少しずつ育ってきている。しかし、子ども同士が聞き合い、認め合う活動はまだ不十分であるため、話を聞く態度を身につける手だてを工夫していく必要がある。
- ・お誕生日会やお楽しみ会などの目的に応じた集団活動との「出会い」のさせ方を工夫していく。

### Ⅲ 中学年分科会

#### 分科会主題

自分たちでつくる 心はずむ学級活動

#### 1 主題設定の理由

中学年の児童は、好奇心旺盛で人間関係も広がり集団活動のおもしろさにも気付いてくると言われている。しかし、自己表現が苦手な児童や、自己中心的な言動をする児童も見られる。また、困難な物事に対する粘り強さや実践力が不十分であり、自分の思いや考えを伝えるのが児童もいる。アンケート（資料1）の結果からも、中学年の児童は、集会活動や係活動は楽しみだが、議題を出すことに積極的であるという実態が見られた。与えられた課題を実践していくことには意欲的だが、新たに自分の願いをもち、自分たちで実現しようとする意識が低く、人任せにしたりあきらめてしまう傾向がある。このことは、児童の集団への所属意識の低さ、自治的な活動の体験不足や自信のなさが原因であると考えられる。

以上のような実態を踏まえ本分科会では、『自分たちでつくる心はずむ学級活動』という研究主題を設定し、「自分たちの力でよりよい学級をつくろうとする子」「自他を認め、お互いに協力し合おうとする子」を目指す児童像とした。児童が「自分たちでつくる」という意識をもつためには、自発的・自治的な活動の体験を積み重ねていくことが必要であり、そのためには次のようなことが大切であると考えた。

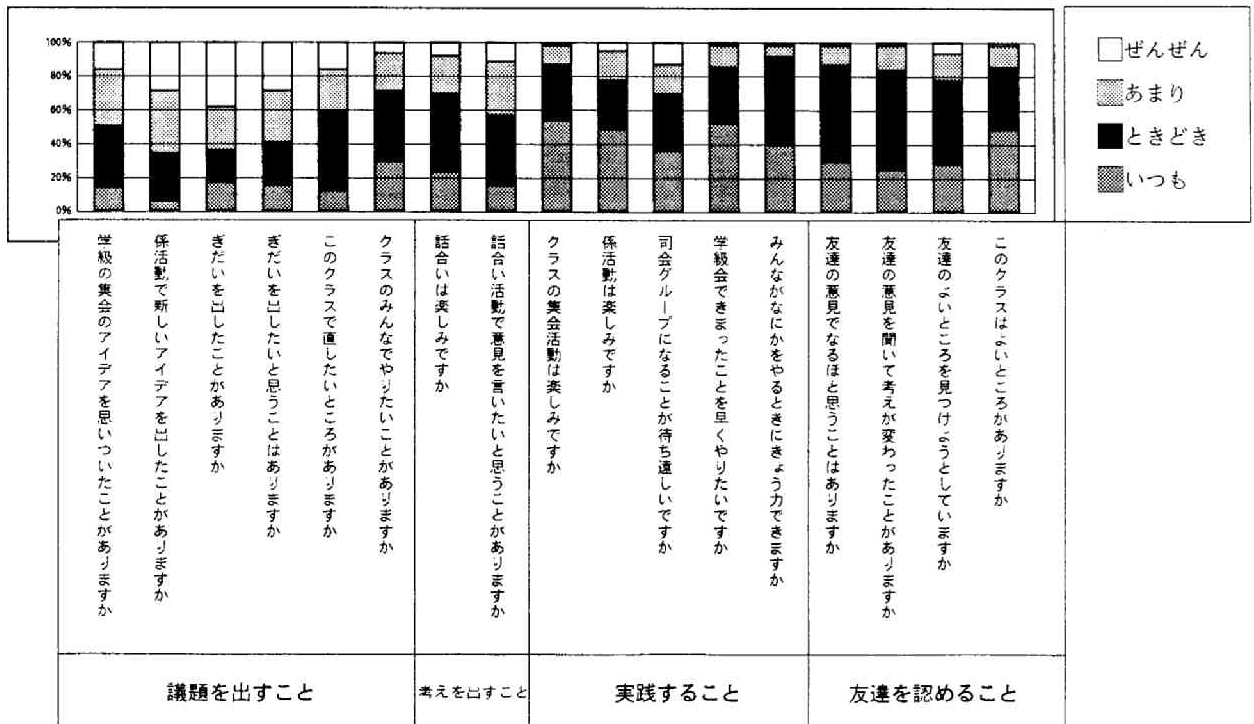
- ・児童が自分たちの学級生活をより良くしようとする意識をもち、議題を見つけ出そうとすること。
- ・認め合い協力し合いながら児童一人一人の思いを学級全体で受け止め生かし、議題を解決していくこと。
- ・児童に活動への意欲と自信をもたせるために、教師が児童の変容を見逃さず、よさや次への課題に気付かせる適切な助言をしていくこと。

児童の気付きを生かし、教師の適切な助言を工夫すれば、児童が自分たちの力でつくり上げてきたという成就感や満足感を味わい、学級への所属感が高まる「心はずむ学級活動」になるのではないかと考えた。

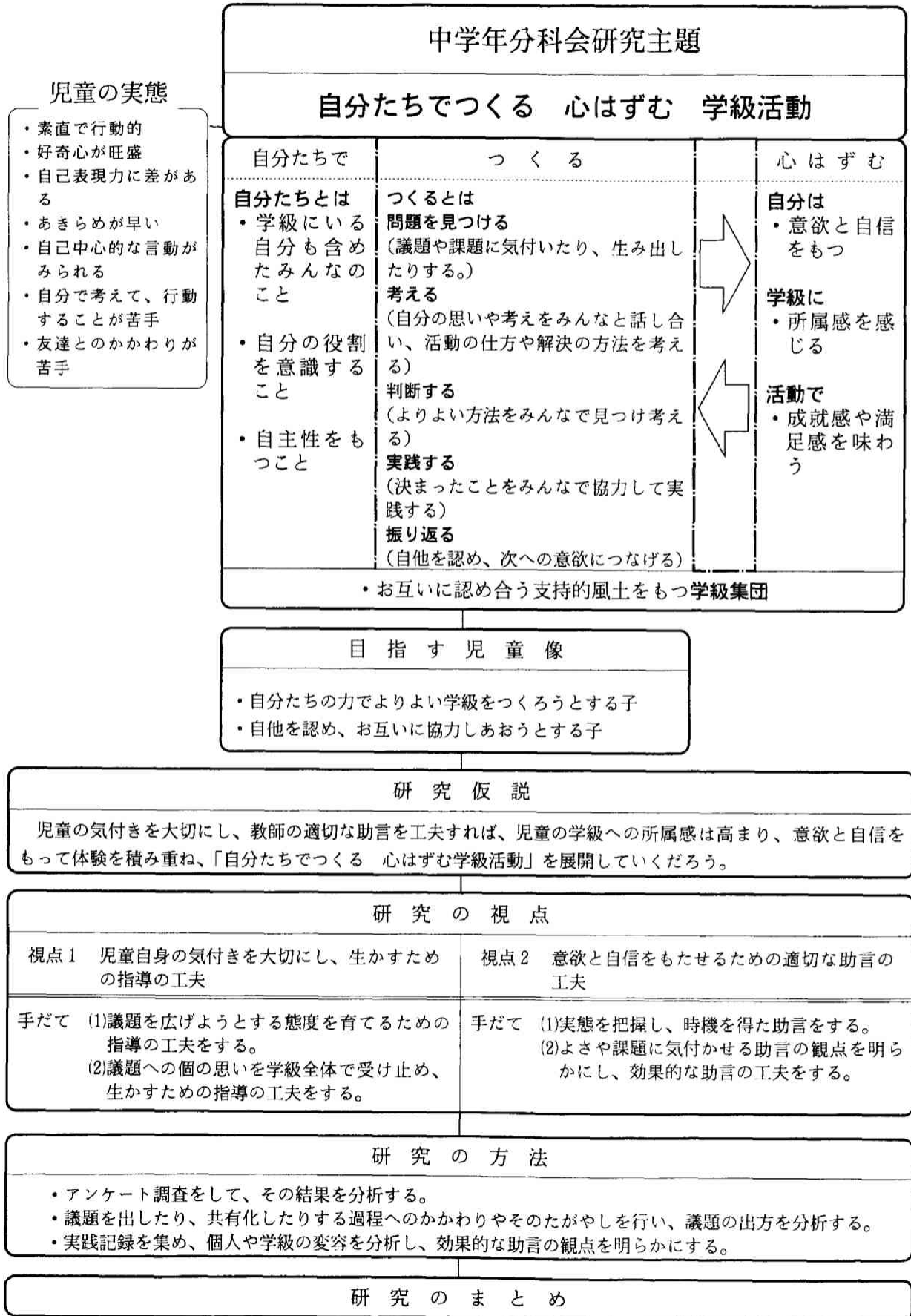
よって『児童の気付きを大切に、生かすための指導の工夫』と『意欲と自信をもたせるための適切な助言の工夫』について視点をあて研究をすすめることにした。

（資料1） 学級活動アンケート 集計結果

平成12年9月 3・4年 212名

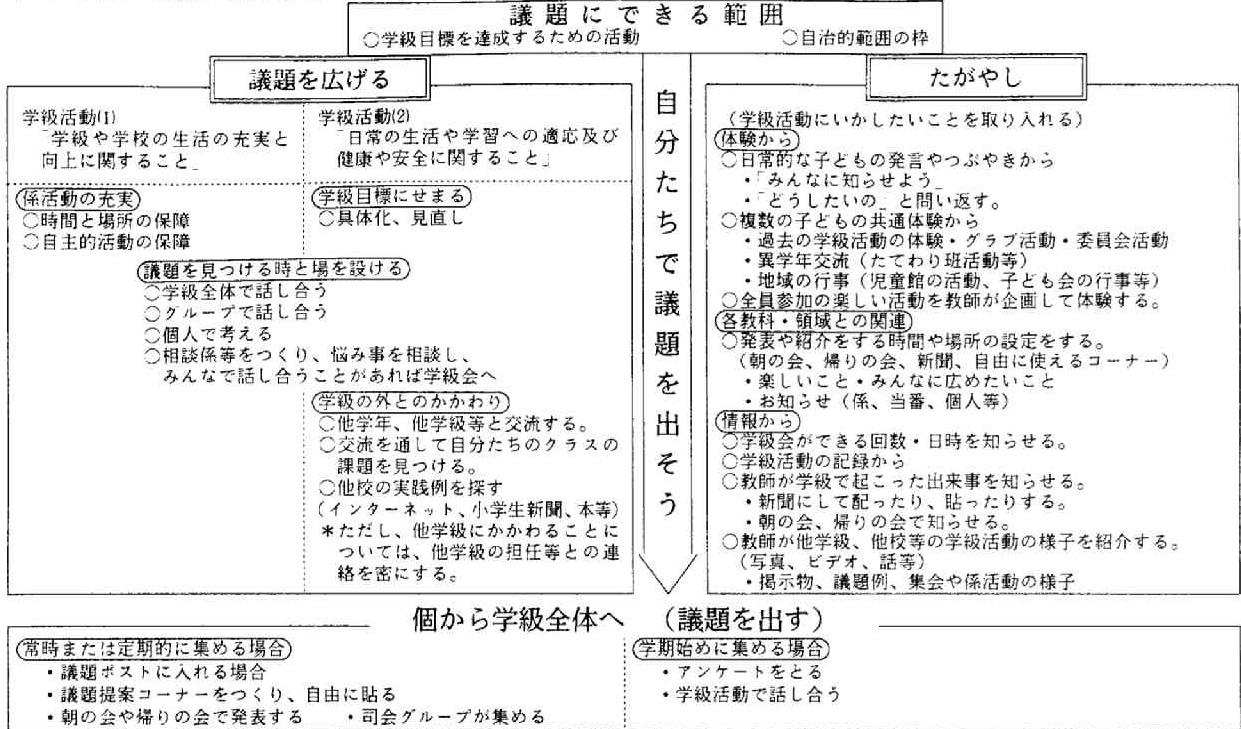


## 2 研究構想図

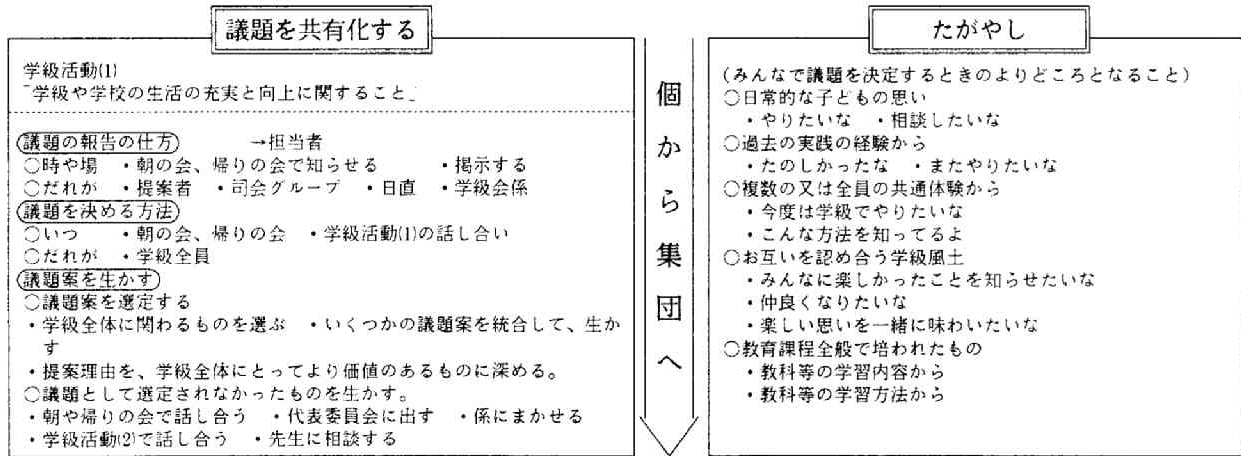


### 3 研究の視点

#### 視点1 児童自身の気づきを大切に、生かすための工夫 手だて(1) 議題を広げようとする態度を育てる



#### 手だて(2) 議題への個の思いを学級全体で受け止め、生かす


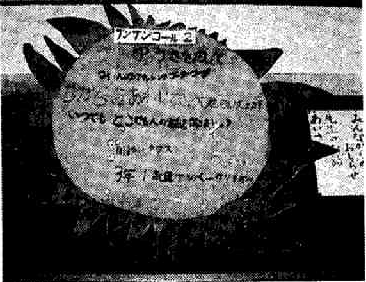


#### 学級全員による議題決定

#### 視点2 意欲と自信をもたせるための適切な助言の工夫

<p>手だて(1) 実態を把握し、時機を得た助言をする</p> <p>①実態を把握する</p> <p>ア、活動の観察記録・授業記録</p> <p>イ、アンケート(意識調査・実態調査)</p> <p>ウ、作文「〇年〇組について」</p> <p>エ、学級会の感想・カード</p> <p>オ、日常の児童のつぶやきや会話、生活の様子</p> <p>②時機を得た助言をする</p> <p>ア、適切な助言の時機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて見られた「芽」となる発言(つぶやき)、行動、態度があった時</li> <li>・芽を生かそうとする発言(つぶやき)・態度・行動があった時</li> <li>・課題や問題点に改善や向上が認められた時</li> <li>・課題や問題点を子どもが受け入れられる時</li> </ul> <p>イ、適切な助言の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賞賛を中心とした助言をする</li> <li>・授業記録をもとに具体的な事実を紹介してほめる</li> <li>・場面の巻き戻しをして課題に気付かせる</li> </ul>	<p>手だて(2) よきや課題に気付かせる助言の観点明らかにし、効果的な助言の工夫をする。</p> <p>①よきに気付かせるための賞賛の観点</p> <p>ア、友達よきを認める</p> <p>イ、友達の思いや考えを大切に生かす</p> <p>ウ、提案理由を大切に生かす</p> <p>エ、創意工夫のある</p> <p>オ、進行や運営に役立つ</p> <p>カ、問題点に気付き、解決しようとする</p> <p>キ、これからの課題につながる</p> <p>「以上のような発言(つぶやき)、行動、態度」</p> <p>②課題に気付かせるための助言の観点</p> <p>ア、決まったことやあいまいなことの確認する</p> <p>イ、次は何をするかの確認と意欲づけをする</p> <p>ウ、創意工夫を刺激する</p> <p>エ、問題点に気付かせ、解決方法を考えさせる</p>
---	--

4 実践事例

	手だて	指導 実践例				
視点1 児童自身の気づきを大切にしながら指導の工夫	(1)議題を広げようとする態度を育てるための指導の工夫 ・学級目標の具体化 ・係活動の充実 ・情報からのたがやし	学級活動の様子がクラスみんなに伝わるような環境を作ることで自分たちの学級作りに関心が高まった。 教室環境・壁面掲示例 <table border="1" data-bbox="454 392 1372 448"> <tr> <td>学級目標</td> <td>学校目標</td> <td>学年目標</td> <td>月ごとの掲示</td> </tr> </table> 学級目標に近づくために、一人一人ができることやみんなでできることを話し合う中で、お願いや、やりたいことが見えてきた。 (例) ミニ運動会、音楽会、やった事のないゲーム大会、小動物を飼うかどうか。 創意工夫が広がるような活動を取り入れ、自主的な活動の場や、機会の保障をする。 (例) ハムスターの名前を決めよう。係の発表をしたい。 他校での集会活動の写真やビデオに関心を示し、自分たちもやってみみたいというつぶやきが増えた。またアイデアを生み出すきっかけになり、新しいことに挑戦する意欲がでてきた。 	学級目標	学校目標	学年目標	月ごとの掲示
	学級目標	学校目標	学年目標	月ごとの掲示		
(2)議題への個の思いを学級全体で受け止め生かすための指導の工夫 ・学級会での議題の選定 ・学級活動(2)での話し合い	学級全員による議題を決めていく学級会をもった。個の思いを大切に、学級活動の見通し(時間、数、場)を考えながら進めていった。 (例) たくさん出された集会を実行するにはどうするか。 議題にすることに反対している友達の思いを受け止め、みんなが納得する方法を話し合った。 (例) 「クラスの合い言葉の2番を作ろう」という議題案に対し「2番は作りたくない。」という、少数の児童の思いを受け止め、配慮しながら話し合いを進めることにした。児童に任せることはできないが、児童にとって解決したい切実な問題を、児童の司会で、教師の意見も交えながら、話し合った。 (例) おかわりのルールを決めよう 					

当番委員会  
 百直スピーチ  
 議題箱  
 議題ノート  
 新聞  
 クラス遊び  
 発表会  
 その他  
 議題ボード  
 学級活動  
 係の表示  
 他校から

○研究の成果 と ◆今後の課題

- 学級目標を意識して、みんなのことを考えるようになった。
- 自分の気づきを友達に広め、友達の気づきを自分に受け入れるようになった。
- 体験の積み重ねにより、議題への関心が高まり、自分たちで問題を解決していこうとする意識が育った。
- 助言を工夫することで、助け合う意見が多くなり、自分たちで話し合いを進められるようになった。

	手だて	指導 実践例
視点 2	(1)実態を把握し 時機を得た助 言をする	賞賛を中心に学級やA児に助言をした。 (例) A児の変容 第14回『私も○や△を見習って勇気をもって言ってみたいな』 A児の感想を紹介し、友達の頑張る姿を見て自分も頑張ろうという気持ちになれたことの素晴らしさをほめ、励ます。他にも同じような気持ちの変化が見られる児童を名前を挙げて紹介し、今後への期待の気持ちを伝える。
	・賞賛を中心とした 助言をする ・感想から児童の思 いを知る	第15回 A児が初めて学級会で発言する 終末の話でA児が自分の思いを実現させ学級会で初めて意見を言えたこと、 <u>発言するために前もって学級会カードの裏面に自分の意見を整理して書いていたことを紹介してほめる。</u> A『今日は私も言えてよかったです。今度もまた言ってみたいです。今度の学級会も言えるようにしておきたいです。今日は本当に楽しかった。やったー！(Vサイン)』
意欲 と 自信 を 持 た せ る た め の 適 切 な 助 言 の 工 夫	・「芽」を取り上げ てほめる	A児は第16回学級会以降も引き続き発言するようになった。周囲の児童にはA児やその発言の少ない友達を応援する気持ちが育ってきた。また~~~~線のよう な学級にとって初めて見られた「芽」となる行動をほめたことにより、学級会カードに意見コーナーを作ろうという意識が強まったり、以下のB児のように自分 もやってみようとする児童も出てきたりした。(B児の感想も紹介してほめた)
	・「芽を生かす行動」 を取り上げてほめ る	B『またAさんが自由帳に意見を書いていた。私も言う前に前もって書けたらいいなと思いました。「Aさんすごい!」』
	(2)よさや課題を 気づかせる観 点を明らかに する	教師の終末の助言の観点を明らかにすることで、分かりやすい助言が可能となった。また、振り返りの時に学級会の場面を巻き戻して、具体的な話の助言をすることにより効果的な指導ができた。 (例) バスケットとサッカーの両方の意見が出たときDさんが両方順番にやればいいという意見を出した。みんなは賛成し、決定されたが、バスケットの話に集中し、サッカーについては決まったことの確認に取り上げられなかった。 T「サッカーはどうなったの。」 C「バスケットの次にやる。」 T「どこにかいてあるの?」 C「あっ、書いてない。」 C「今度はちゃんと書こう」 決まったことを落とさずに記録に残すことの大切さに気づいていった。 マグネットの色を使ってチームのゼッケンの色を表す工夫をした黒板記録を賞賛した。創意工夫を賞賛することで、他の児童にも新たな工夫をしようとする動きが見られた。次の学級会では、色を使った書き分けをしていく工夫を考え出した。 T「この続きはどうするの」 C「次の学級会で話し合う」
	・決まったこととあ いまいなことの確 認 ・問題点に気づかせ、 解決方法を考えさ せる ・創意工夫を刺激す る ・次は何をするのか の確認	

○振り返りによって次への意欲が高まり、新たな課題に気づき、これを評価することで自分自身への自信につながっていった。

◆議題を出すことへの関心が高まると、議題は多くでてくるが、限られた時間の中で選定していく工夫が必要になった。

◆一人一人の気付きや個を生かすための適切な助言について更に研究を深める。

◆話合いの進め方や決め方については、これからも体験を積み重ねてその学級にあった方法を見つけ  
ていくことを課題とする。

## IV 学級活動高学年分科会

### 分科会主題

認め合い、みんなで作る学級活動

#### 1 主題設定の理由

高学年分科会では、学級生活の核となる集団の、より望ましいかかわり合いの中から、子どもたちの「豊かな人間性」と「集団の中で自分らしさを発揮しながら主体的に生きる力」を育てていきたいと考え、目指す児童像を次のように設定した。

○自分たちで行動し、考え、高め合っていくことができる児童。

○友だちや学級全体のことを考えながら、進んで行動したり、意見を言ったりすることができる児童。

そして、「高め合う学級集団」を最終目標に置き、次の視点で取り組むことにした。

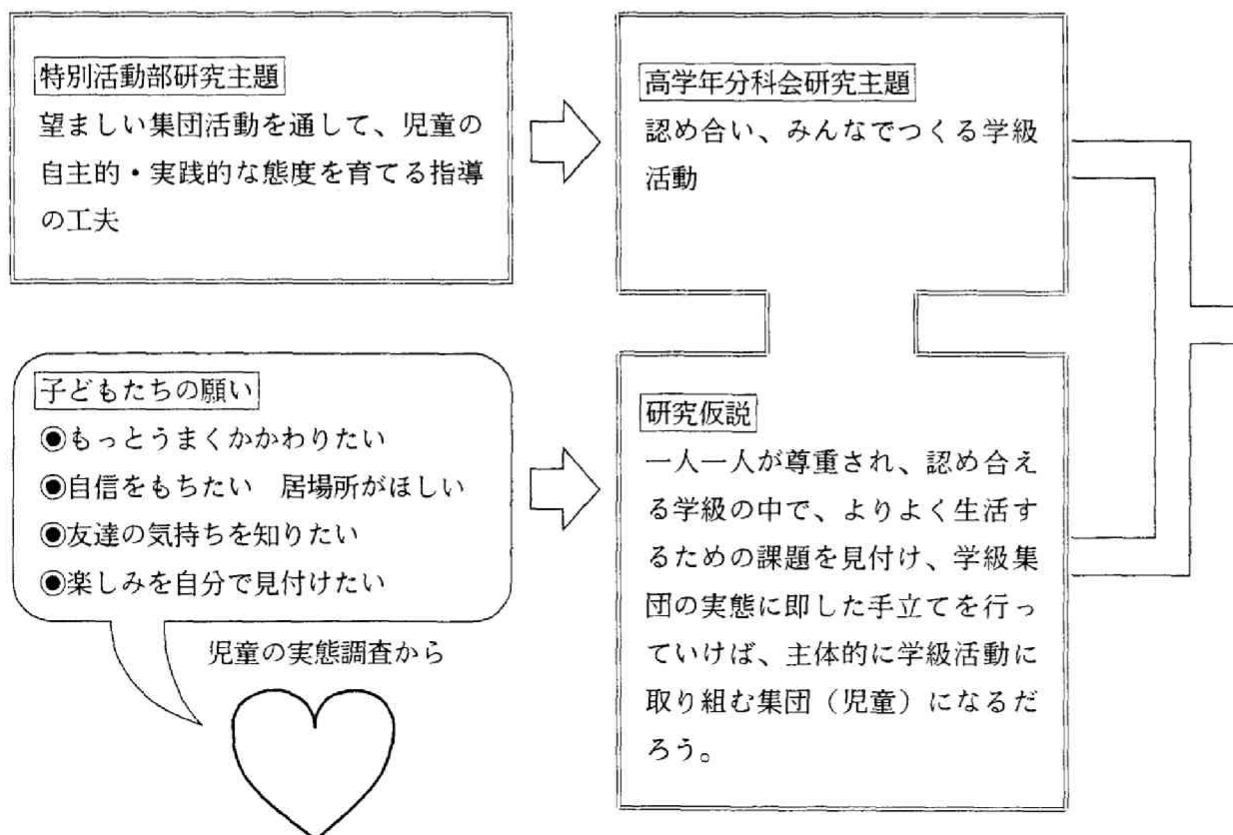
**視点1** 一人一人が尊重される温かい学級づくりをする。

**視点2** よりよく生活するための課題を見つけ、みんなのものにする。

**視点3** 課題を解決していくための方法を探る。

特に**視点3**については、学級集団としての実態を的確にとらえ、段階的に手立てを行っていけば、集団としての高まりを促すことができるだろうと考え、本主題を設定した。

#### 2 研究構想図





**視点1 「一人一人が尊重され、認め合える学級」づくりの工夫**  
 日常の学校生活の中で、個の居場所の広がりを求められるような手立てを工夫していく。

○友達とのかかわりやめあてをもった活動を通し、自分の居場所を確認しながら広げていくようにする。

①振り返りの場  
 ・自分の活動を自分自身で振り返る

②承認される場  
 ・友達から、自分の活動を認められる

③共感し合う場  
 ・友達と同じ思いを通わせる

○一人一人が楽しいと思えるような学級づくりをする。  
 →児童への意識調査を行う

○仲間意識を育てるコミュニケーション活動を意図的に取り入れる。

◇個の居場所の広がり



研究の視点

**視点2 「よりよく生活するための課題を見付ける」指導の工夫**  
 学習や学校生活、社会生活とのつながりを考えさせ、学級での生活をより豊かにしようとする意欲や態度を育てる。

学習活動	学校生活	日常生活
○考えを具体的に表現する場づくり ・個人→日記、スピーチ、議題箱など ・グループ→新聞づくり、学習発表会など ・意見交換→朝の会、帰りの会、学級会	○集団で実践的に表現する場づくり ・集会活動→個性を生かした分担活動 ・係活動→アイデアを生かした活動 ・当番活動→役割分担と協力の活動	



**視点3 「学級集団の状況に即した手立て」の工夫**  
 集団の状況を客観的に把握し、段階に即した指導を計画的に行っていく。

○学級集団の状況を3段階に分け、それぞれの段階における「期待する児童像」を設定する。

☆学級集団の段階	☆学級の段階における期待する児童像		
高め合う	①安心できる学級集団	②認め合う学級集団	③高め合う学級集団
認め合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心して学級にいることのできる子</li> <li>クラスの一員だと感じられる子</li> <li>役割意識がもてる子</li> <li>自分の考えがもてる子</li> <li>友達の意見が聞くとができる子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力して活動できる子</li> <li>クラスの一員として貢献できる子</li> <li>進んで役割を果たせる子</li> <li>自分の考えを表現できる子</li> <li>友達の意見を受け入れることのできる子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を尊重して活動できる子</li> <li>学級全体を考えて行動できる子</li> <li>創造性や工夫を生かして役割を果たせる子</li> <li>相手の立場や気持ちを考えながら表現できる子</li> <li>友達のよさを取り入れ、生かせる子</li> </ul>
安心できる			

○学級集団の状況に即した手立てを工夫し、段階別「話し合い活動の手立て表」を作成する。

3 話し合い活動の手だて表

		①安心できる学級集団	②認め合う学級集団	③高め合う学級集団	
意欲づけ		<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで行うことが楽しいと思える活動</li> <li>学級会コーナーの設置</li> <li>役割分担の明確化</li> <li>朝の会や帰りの会の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの想いが実現する喜びが味わえる活動</li> <li>学級活動カレンダーの工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの創意工夫が生かされる活動</li> </ul>	
議題	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなが仲良くなること</li> <li>クラスを楽しくすること</li> <li>困っていること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスをもっとよくしたいこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童会とのかかわりの中で積極的な投げかけ</li> </ul>	
	収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>議題ポスト</li> <li>提案用紙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見文</li> <li>スピーチ</li> <li>朝の会や帰りの会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて随時</li> </ul>	
司会グループ		<ul style="list-style-type: none"> <li>司会グループ輪番制</li> <li>学級会カードの作成</li> <li>議題の予告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級会カレンダーの工夫</li> <li>学級会カードの工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会グループによるアンケート</li> <li>学級会を開くまでの独自の広報活動</li> </ul>	
話し合い	ルール	態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を最後まで聞く態度</li> <li>相手を否定しない工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会進行を助ける発言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その場に応じたルール of 修正</li> </ul>
		司会	<ul style="list-style-type: none"> <li>指名の工夫</li> <li>少数意見を大切にす工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間配分を意識した進行</li> <li>目的に応じた座席の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見をまとめながら進めていく進行</li> <li>効率的な進行</li> </ul>
	表	方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハンドサイン・名前シール</li> <li>議題について自分なりの意見を書くカード</li> <li>友達の意見をメモできるカード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いのポイントを考えたカード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いくつかの考えを並べ比較検討できるカード</li> </ul>
		意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>小グループによる討議</li> <li>意見の表現をうながす掲示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで共有化した意見の発表</li> <li>聞き手に分かりやすい説明や話し方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見を共有するグループで検討した意見を提案</li> <li>聞き手が納得できる論拠のある話し方</li> </ul>
	現	態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意思を表現する</li> <li>うなずく</li> <li>拍手する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反対意見も含めて、自由に意見が言える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つの意見の修正していく</li> <li>複数の意見を合成していく</li> </ul>
		受容	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の話を聞く</li> <li>意見が受け入れられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場や考えを理解する</li> </ul>	
い	振り返り	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の活動を自分自身で振り返る</li> <li>友達から、自分の活動を認められる</li> <li>自分に対する終末の助言に喜ぶ</li> <li>友達に対する終末の助言に賛同する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のよかった意見や態度を見付けられる</li> <li>友達の進行のよさを見付けられる</li> <li>発言内容への賞賛</li> <li>提案理由に基づく発言</li> <li>創意工夫のある発言</li> <li>進行や運営に役立つ発言</li> <li>問題点に気づく発言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のよさを自分なりに取り入れる</li> <li>修正や合成できた意見の発言者や協力者への賞賛</li> <li>今後の課題につながる発言への賞賛</li> </ul>
		助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画委員会への賞賛</li> <li>発言者への賞賛</li> <li>聞く態度への賞賛</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ意見への賞賛</li> <li>周りの意見を聞く態度への賞賛</li> </ul>	
実践		<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と同じ思いを通わせる活動</li> <li>一人一役</li> <li>ルールを作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のよさを確認し合う活動</li> <li>効率のよい役割分担</li> <li>自分たちにあったルールの工夫</li> <li>主体的な取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達どうして磨きあえる活動</li> <li>個性を生かした役割分担</li> <li>アイデアやオリジナリティーを生かした活動</li> </ul>	
活動の振り返り		<ul style="list-style-type: none"> <li>記録</li> <li>振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表示</li> <li>ありがとうカード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次へつながる振り返り</li> </ul>	
他教科等との係わり	国	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞く・話すの活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>討論活動</li> </ul>	
	社・算道	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査活動</li> <li>責任感</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の作成やまとめ方</li> <li>相手の立場に立った行動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料をもとに発表しあう</li> <li>よりよくしようとする態度</li> </ul>	

#### 4 実践事例

本分科会の研究主題における「視点1」については、学習および学級生活の中で、温かい学級づくりを心がける。また、「視点2」については教科・領域等の指導との関連を考えながら日常の場面に応じて学級、グループおよび個別に指導していく。本分科会では、「視点3」「学級集団の状況に即した手立て」に重点をおいて、授業研究を行ってきた。以下は、学級集団の状況の違う2クラスで同じ議題で学級活動を展開した場合の実践事例を紹介することにする。

	実践事例 1 「①安心できる学級集団」の段階のクラス	実践事例 2 「②認め合う学級集団」の段階のクラス	
学級の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや幼い感もあるが、活発で元気な子が多い。おとなしいが、しっかりしている子も少なくない</li> <li>・司会グループは輪番にしているが、まだ話合いの進め方の指導が不十分なので、活発な話合いになっていない</li> <li>・係活動には意欲的であるが、停滞気味の係にはアドバイスをしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく穏やかな児童が多い</li> <li>・学習や当番活動には真面目に取り組むが、主体的な活動には物足りなさを感じる時がある</li> <li>・話合いに進んで参加する児童は5～6人と少なく、考えたり進んで意見を言ったりすることが苦手な児童が多い</li> <li>・係活動にはほとんどの子が意欲的に取り組む</li> </ul>	
課題	「オリンピックの団体種目を決めよう」		
めあて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何でもオリンピック」のめあて（みんなが楽しめる）にあった団体種目を決めることができる</li> <li>・自分の考えをもって話合いに参加することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「5の2オリンピック」のめあて（みんな協力、だれでも金メダル）を達成できるような団体種目を決めることができる</li> <li>・友達のことを聞きながら、自分の考えをもって話合いに参加することができる</li> </ul>	
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会グループ→事前に学級会カードを作成</li> <li>→打ち合わせを行い、話合いの柱にたてる</li> <li>・学級全体→自分の意見を学級会カードに書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会グループ→種目アンケートの作成と集計</li> <li>→見通しがもてる学級会カードの工夫</li> <li>・学級全体→ふさわしい種目を学級会カードに書く</li> </ul>	
	○ 児童への手立て	★ 児童の変容	
話し合いの振り返り	態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手を否定しない工夫</li> <li>★反対意見が続いたが、教師の指導により、解決した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○司会進行を助ける発言</li> <li>★賛成、反対意見が混合しそうな時「反対意見は後で…」という発言があり、進行をスムーズにした</li> </ul>
	司会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指名の工夫</li> <li>★名簿を使って、発言数の少ない人から指名していった</li> <li>○少数意見を大切に工夫</li> <li>★一人一人の意見をカードで掲示していた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間配分を意識した進行</li> <li>★「まだ意見を言っていない人から指していいですか」と全体へ呼びかけた</li> <li>★「あと5分」の書記の声に、「拍手の大きいものから2つ決めます」と採決にうつった</li> </ul>
	方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ハンドサイン</li> <li>★意思表示のサインを出したので全体の場が盛り上がった</li> <li>○議題についての自分なりの意見を書くカード</li> <li>★事前に意見を書くことで、意見が言いやすかった</li> <li>★振り返りにも使えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話合いのポイントを考えたカード</li> <li>★学級会カードに日程表と枠を書いておいた</li> <li>○いくつかの考えを並べ検討できるカード</li> <li>★アンケートを集計した種目を事前に掲示することで、比較検討しやすいようにした</li> </ul>
	意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小グループによる討議</li> <li>★意見が出ないとき、近くの人と話し合うことで話合いが活発化した</li> <li>○意見の表現をうながす掲示</li> <li>★「意見の言い方」の掲示物に基づいて、意見が言えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞き手に分かりやすい説明や話し方</li> <li>★理由を述べて、自分の意見を言った</li> <li>○聞き手が納得できる論拠のある話し方</li> <li>★「真ん中は長いから大きなことをやったほうがいい」「閉会式の日にはダンスがいい」等日程を考えて意見を言えた</li> </ul>
	態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の意思を表現する</li> <li>★ハンドサインを用いることで、全員が意思を表示できた</li> <li>○自由に意見が言える</li> <li>★反対意見も含め、多くの児童が意見を言えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の意思を表現する</li> <li>★同じ意見・賛成の時は、〈拍手〉という形で全員が自分の意志を表現できた</li> <li>○自由に意見が言える</li> <li>★ほぼ全員が意見を言えた</li> <li>○意見の修正・合成</li> <li>★「バラバラ」と「おはロック」は一緒にやるといいなど合成した意見が言えた</li> </ul>
	受容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手の意見も聞く</li> <li>★反対意見でも、途中でじゃますることなく、最後まで聞けた</li> <li>○意見が受け入れられる</li> <li>★反対意見でも意見は意見として受け入れて、聞くことができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手の立場や考えを理解する</li> <li>★一緒にしたらいいという意見や日にちをずらしてやったらいいという改善意見が多く見られた</li> <li>★説明に困っている女子に「ガンバレ」と応援。さらに、「つまり……というわけですね」と助ける発言が見られた</li> </ul>
	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分に対する終末の助言に喜ぶ</li> <li>★「自分の意見に賛成してくれてうれしかった」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達によかった意見や態度が見つけられる</li> <li>★「今まで1度も言わなかった子が進んで発表できてすごいと思った」「司会の進め方がよかった」など</li> </ul>
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画委員会への賞賛</li> <li>★司会グループががんばってくれた</li> <li>○発言者への賞賛</li> <li>★いつもより発表した人が増えた</li> <li>★ハンドサインを使い、多くの人が意思表示ができた</li> <li>★発想の良い意見を出した人に「ネーミング賞」授与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発言内容への賞賛</li> <li>★みんなが意見を言えた</li> <li>○計画委員会への賞賛</li> <li>★事前に集計し、カードを作って工夫した</li> <li>○発言者への賞賛</li> <li>★発言者を助ける発言が多く見られた</li> </ul>

<考察>

<p>実践事例1「安心できる学級集団」の段階のクラス</p> <p>あらかじめ学級会カードに自分の考えを書いておくことで、自分から進んで手を上げ発表する子どもが増えた。カードに書いてあることで、安心して考えが言えたのかもしれない。また、進んで発表する子どもも、自分と同じ考えが発表されると、ハンドサインで自分の意思を表現できるようになってきた。司会グループと事前に議事進行について打ち合わせを行うことで、教師だけでなく司会グループも学級会の流れが見えて、安心して話し合いに臨めたと思う。</p> <p>団体種目のネーミングや、今まで行ったことのないユニークな競技内容を発表している姿に、子どもたちの意欲が感じられたことがうれしかった。司会グループの進め方、話し合いの仕方など今後の課題はたくさんあるが、互いを認め合い、尊重していく雰囲気のある学級にしていきたい。</p>	<p>実践事例2「認め合う学級集団」の段階のクラス</p> <p>みんながよさを発揮して金メダルを獲得できる団体種目の選定が話し合いの中心になった。互いの意見を否定し合うのではなく、自分が主張する種目に賛同してもらうため、聞き手が納得できる論拠のある発言が少しずつできるようになってきた。このことは、一人一人が自分なりにクラスにかかわろう、貢献しようとする気持ちの表れだと考えている。また、話し合い活動の手立て表に基づいて「発言の型」を掲示したりしたこと、話し合いのポイント考えた学習カードを活用したりしたとも有効だった。</p> <p>司会グループの進め方、活発な話し合いのための手立てなど今後の課題はたくさんあるが、さらに学級と一人一人が高まっていかれるよう、子どもたちと共に学んでいきたい。</p>
---	--

5 まとめ

(1) 研究の成果

視点1 「一人一人が尊重され、認め合える学級」づくりのための工夫

「友達の意見は最後まで聞く」、「相手のよさを見つける」などを日常的に意識して生活を積み重ねていくうちに、学級全体が相手を受け入れる雰囲気になり、一人一人が所属感を持ち自分なりに学級のために寄与しようとする姿勢が見えてきた。

視点2 「よりよく生活するための課題を見つける」ための工夫

意見交換する場や自己表現する場を多く設定したことにより、自他を深く見つめ、さらに学級や学校、地域へと視野が広がり、自分たちの課題を見つける態度が育ってきた。

視点3 「学級集団の状況に即した手立て」

具体的にクラスの実態を把握し、それに即した手立てをとることにより、話し合いのルールや流れなどが分かり、見通しをもって自分たちで解決しようとする意欲が出てきた。

(2) 今後の課題

- ・さらに実践を積み重ね、「話し合い活動の手だて表」を改訂し、いっそう児童の実態に則したものになるよう改善を図る。
- ・児童が主体的に活動し、より大きな達成感や充実感を味わうことができるよう、終末の助言などの教師のかかわりを工夫する。

## Ⅵ 児童会活動分科会

### 分科会主題

#### 自発的、自治的な児童会活動を展開する指導の工夫

#### 1 主題設定の理由

代表委員会をはじめ児童会活動は、児童が自分たちの学校生活を充実、向上させようとする意図のもとに自発的、自治的に学校生活に関する諸問題の解決をめざしていくものである。このねらいを達成するためには、児童会活動において異学年の児童が互いに協力して自分たちの生活の向上をめざしていく活動が必要である。また、代表委員を含め、全校の児童が児童会活動に関心をもち、学校生活をよりよく楽しくしていくために進んで参加していくことが重要である。

しかし実際には代表委員を中心とする一部の児童の活動にとどまることが多い。また、代表委員会の活動も子どもたちが自ら参加したいような魅力ある活動になっていないのが現状である。例えば、児童会活動の役割が学校行事への支援活動が中心となり、その内容も固定化・画一化を見せている場合もある。既存の活動の内容を変えていくにも、新規の活動を創造していくにも、限られた活動時間の中では、子どもたちにとって充足感の得られるものになり得ていないこともある。そのことが、子どもたちにとって児童会を身近かでないものになっているのではないかと考えた。

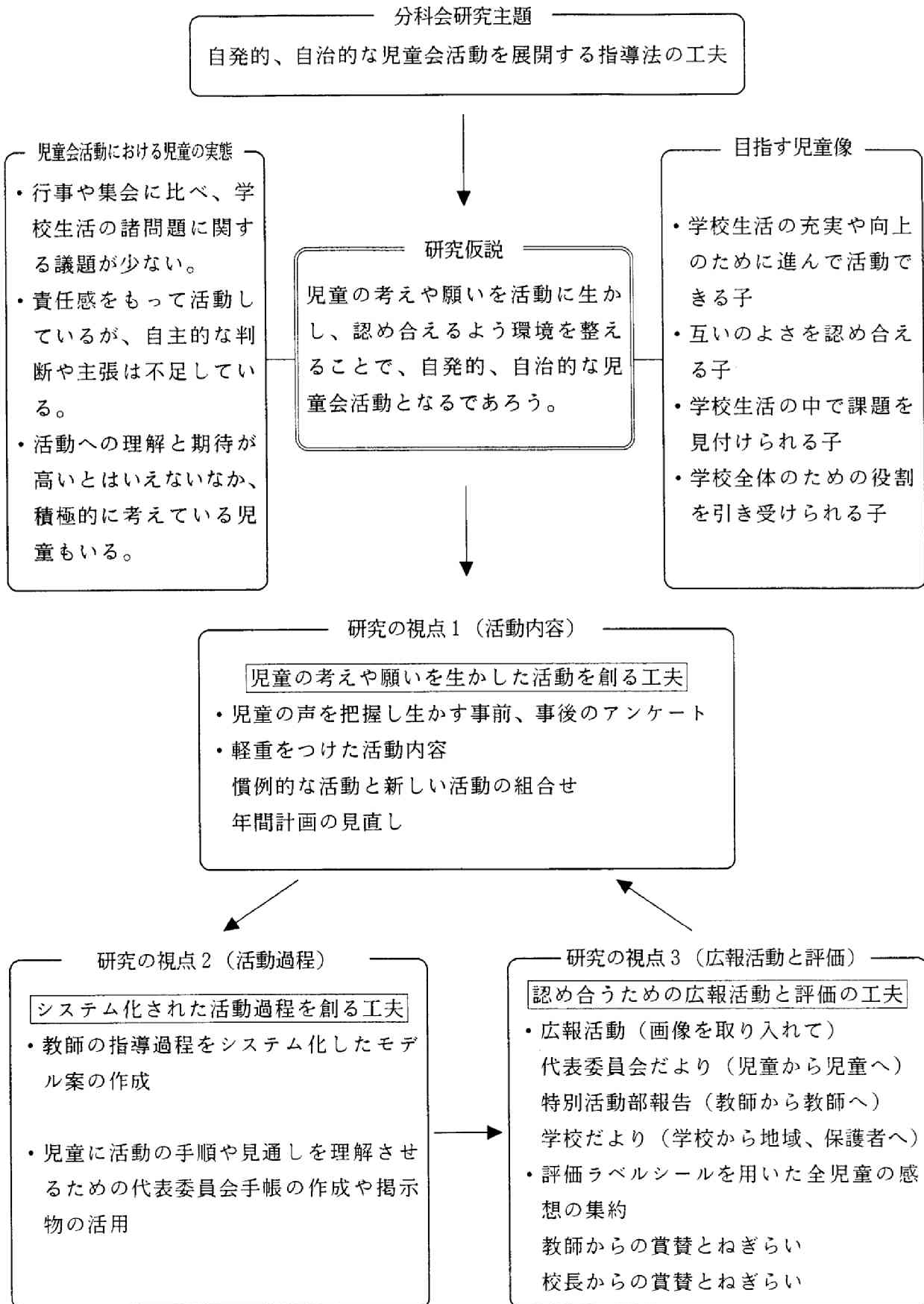
本分科会が行なった実態調査から、次のことが分かった。

#### <実態調査の結果>

活動内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・運動会スローガンなどの学校行事を支援したり、一年生を迎える会などの児童会集会活動に取り組むことが多いが、学校生活に関する諸問題について話し合うことが少ない。</li></ul>
代表委員児童の意識	<ul style="list-style-type: none"><li>・代表委員をやってよかったこととして、みんなの役に立てた（貢献）、みんなの前で話せるようになった（表現力の向上）、自分たちのことを自分たちで決められるようになった（自己決定）があることが分かった。</li><li>・半数を越える児童が意欲的に参加しているが、自主的な判断や主張ができる児童は少ない。</li></ul>
他の児童意識	<ul style="list-style-type: none"><li>・代表委員会で話し合っしてほしいことに気付かない。</li><li>・代表委員会の活動内容への理解が低い。</li></ul>

そこで、私たちは、限られた時間の中で子どもの思いや願い、考えをできるだけ代表委員会活動に生かすシステムの考案と、代表委員会のねらいや方法などをもっと分かってもらうための広報活動の工夫などを通して、その活動を活性化し、子どもたちにとって魅力的なものにしていくための指導法の工夫を研究することにした。

## 2 研究構想図



### 3 研究内容

視点1の内容として年間活動計画（試案）、視点2の内容として代表委員会手帳、視点3の内容としてラベルシールを紹介する。そして具体的な実践として、次のページのモデル案に基づいた小池まつりの様子を紹介する。

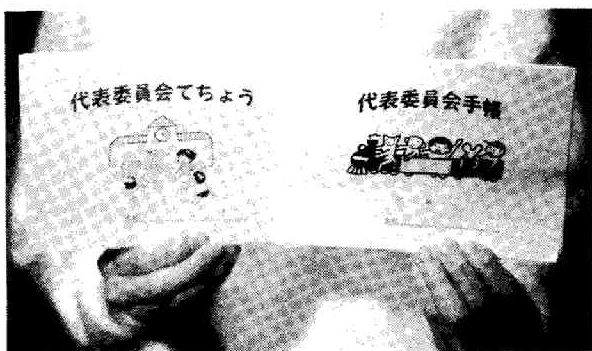
#### 視点1 **児童の考えや願いを生かした活動を創る工夫** …年間活動計画（試案）

代表委員児童の活動	4	5	提→提案 6	計→計画 7	実→実践 9	反→反省 10	アンケート（代表委から各学級へ） 11	12	1	2	3月 調→調査
オリエンテーション	●					●					
一年生を迎える会	実—反									ア 提—計	
運動会スローガン		ア									
学校生活の諸問題	提1			ア1		ア2	調1	ア3	調2		
〇〇まつり			提—計	計—実	実—反						
六年間を送る会									ア 提—計—実反		
一年間の活動を ふり返って										ア 提—反	

- 運動会スローガンのような慣例的なものは、短期間で取り組むが、アンケートを通して各学級からの意見の吸い上げ方等を学ぶ機会とする。
- 学校生活の諸問題は情報の収集に時間をかけたり、児童に意識づくりをしたりするので、4月より取り組む。5月以降の代表委員会では、代表委員会手帳等を用いることで時間を節約し、学校生活の諸問題についても取り上げられるようにしておく。（議題の複線化）
- 年度の初めは、代表委担当教員が児童会活動を積極的に指導していくが、少しずつ児童が、自発的、自治的に活動できるように支援していく。

#### 視点2 **システム化された活動過程を創る工夫**

…代表委員会手帳の活用



- 内容は、手帳の使い方、代表委員会活動の紹介、司会台本、年間予定表、メモ欄で約24ページ。
- オリエンテーションの特に、手帳を使いながら時間を節約したり、気づいたことをメモをしたり、司会児童が参考にしたり、利用価値があった。

#### 視点3 **認め合うための広報活動と評価の工夫**

…ラベルシールの活用

\*市販されているラベルシールでワンタッチで貼れるので、掲示物を速く作る利便性がある。



仕事をや、ていとかし  
かたけどいろんな学年の  
人とふれあえてよ かった。

しよとは小池まつりのひと  
ちにしよはいいしよにして  
らたこがうれしかったで  
す。

- ラベルシールは、集会活動後に児童の感想を手短かにまとめることに有効であった。しかし人数の多い学校では、かえって整理が煩雑になり一考を要する。

視点2 システム化された活動過程を創る工夫 …モデル案 小池祭りを成功させよう（10月）

【手帳】は代表委員会手帳【学】は学級【委】は委員会

児童会担当者の支援 (代表委員へのはたらきかけ)	児童の活動 代表委員会(話し合い) (運営委員会・代表委員会) (伝える 報告する) (意見を吸い上げる)	学級・委員会(所属集団)	広報と評価 (視点3)
4月 ・オリネーション(児童会のため意義の理解)を実現する ・年間活動計画表を配布し、10月に「○○○まつり」を実施することに慣れておく。(日時、会場)	第1回代表委員会 代表メンバーを知ろう 年間活動計画の見直しをもとう ・自己紹介をする ・【手帳】を読み合う ・年間活動計画表を提示し、代表委員会の報告をする	【学】・提示物を見たり、代表委員の報告を聞いて、年間の見直しもつ	・代表委員会だより ・委員会情報 ・児童会年間活動計画表
6月 ・「○○○祭り」の昨年の様子を知らせ、本年度の見直しをもたせる。(VTR、写真等で)	第3回代表委員会 ○○○まつりに取り組もう ・昨年度の様子を知り、7月から取り組むことを予定しておく ・昨年度からの引き継ぎで、「お店形式」でやったことを知る。	【学】・7月から取り組むことを知る	・代表委員会だより
7月 ・児童会のため1年から6年までなかよくしよう。を達成するための「○○○まつり」であることを知らせる ・めあてにそったキョウチフレスであるか助言する ・1学期中に配布しないで、2学期早々にアンケートを配布することを確認しておく	第4回代表委員会(委員長も出席) ○○○まつりのキョウチフレスを決めよう ・「○○○まつり」をどのような内容(店の種類や数など)にすれば、めあてを達成できるか話し合う。 臨時運営委 キョウチフレスを決めよう ・代表委員で出された意見をもとに運営委がキョウチフレスを作る ・キョウチフレスをもとにしたアンケートを作成する	【学】・「○○○まつり」の意義やねらいを知る ・店の種類や数を検討しておく 【委】・委員会として、協力できることはないか考えておく	・企画会 職員会議に提案(概略) ・代表委員会だより
2学期 9月1日	臨時運営委 日会いふれあいゼミ○○○まつり ・1学期に作成しておいたアンケートを学級に配布する 第5回代表委員会(委員長も出席)	【学】・めあてを達成するために、どのような店にしたいか話し合っておく	・学級だより「○○○まつり」について執筆
2週目 ・わからないことや困ったことがあったら、担当者や学級担任に相談するよう伝えておく	一人一人のアイデアをもって、楽しい○○○まつりにしよう ・アンケートに学級の意見を集約して、代表委にもってくる ・委員会に話し合ったことを代表委にもってくる ・店の内容がだぶらないように調整する。 ・使いたい場所を調整する。 ・PRの方法を決める マップTV放送ポスター等 ・準備やPRの役割分担をする ・委員会で協力できることを決める	【委】・委員会で協力できることを話し合い、委員会情報に書いておく 【学】・店や場所の調整の必要な学級は、話し合っておく ・PRの役割分担をしてマップTV放送ポスター 【委】・協力できることを委員会で実行する	・代表委員会だより ・委員会情報 ・企画会 職員会議に提案(細案) 評価例 ・協力して取り組んでいる ・PRの工夫をしている ・低学年のことをよく考えている
3～4週目～10月1週目(前日まで)	各学級・各委員会で話し合ったこと(店の用意、PR等)をやっておく(準備期間) 各担当でPRする ・マップ TV 放送 ポスター等 【委】 運営委 ・「○○○まつり」の反省アンケートを作成する ・反省のアンケートを学級に配布する	【学】準備 【学】事前から事後の取り組みを反省することを知る	・各クラス・委員会の様子をデジカメで撮っておく。
当日 ・子ども達の活動を見守る。			・ラベルシートに一言感想を書く ・デジカメ撮影や声かけ
10月2週目 ・後期代表委員のメンバーに前期のメンバーの活躍を伝える	第6回代表委員会 ○○○まつりの反省をして、来年に生かそう ・アンケートに学級の意見を集約して代表にもってくる ・委員会の様子を報告できるようにしておく ・反省の結果を学級に配布する	【学】「○○○まつり」の反省を話し合っておく 【委】委員会の様子を委員会情報に書いておく 【学】反省の結果を知る	・代表委員会だより ・委員会情報 ・ラベルシート・デジカメの写真の提示



#### 4 実践事例 活動名「小池まつりを成功させよう」(全校児童集会)

本校では、学校週5日制の完全実施を踏まえ、集会の回数や時数が減る傾向がある。現在は学期に1回ずつ児童会主催の全校児童集会を実施している。「小池まつり」は代表委員会で計画し実施する集会の中で、児童の創意工夫が生かせるもので、どの児童もたいへん楽しみにしている。毎年、集会の内容は、お店形式の希望が多く、ともすれば児童会のめあてを忘れ、自分たちだけが楽しんで集会が終わりがちである。今年度は例年にも増して、4月より準備を始めたり、アンケートを使って各学級の考えを吸い上げたりして、児童会が積極的に取り組むことを代表委員に意識づけた。

##### (視点1) 児童の考えを生かした活動を創る工夫

4、5月は学校行事の支援的な活動(運動会スローガン)を中心にを行い、6月に学級から議題を把握し、生かすことを実施した。代表委員会の議題を複線化し、同じく6月から10月実施の全校児童集会に向けて提起しておいた。本校児童会のめあて「1年から6年までなかよくしよう」を達成するための集会活動であることを強調し、7月の代表委員会でアンケートの内容やキャッチフレーズについて話し合った。めあて達成のためにどのような内容にすればよいのかアンケートを実施し、全校児童の考えを吸い上げるようにした。その結果、異学年交流を意識したキャッチフレーズが考えられ、学級内の協力が得られ全校児童の交流が深まるよう出し物が工夫された。

##### (視点2) システム化された活動過程を創る工夫

児童向けの「代表委員会手帳」は、10月の後期代表委員会のオリエンテーション用に用意したので、「小池まつり」の活動には直接役立つことはなかった。しかし教師向けのモデル案を事前に作成しておいたので、活動の見通しが立てやすく児童への支援・助言・励ましを適切に行うことができた。

##### (視点3) 認め合うための広報活動・評価の工夫

活動の様子を全校児童に知らせるため、ペア学級を通じて代表委員会報告や委員会情報を配布するようにした。「小池まつり」で、委員会でも協力できないことがないか呼びかけておいた。広く知らせることで、児童が準備やPRも積極的に取り組んでいるとき、教師側も賞賛の声かけやデジカメ撮影など意識的に行うことができた。

##### (実践を通して)

定例の代表委員会は、年間11回で計画されている。旧メンバーの代表委員で「1年生を迎える会」を実施するのと平行して、第1回目の代表委員会を開いている。そこで、新メンバーに児童会の意義や進め方を指導するため、オリエンテーションを実施している。「運動会のスローガン」も学校行事の支援的なものであるが、各学級からの意見の吸い上げ方、代表委員会の役割分担の方法を身に付けさせる機会として実施している。「小池まつり」の取り組みを6月から10月という長いスパンにしたので、児童の自発的・自治的活動につながった。また学級・委員会と代表委員会を結ぶことも無理なくできた。児童の生活の実態から、休憩時や放課後など頻繁に活動を行わせることは難しい。児童会の活動内容も限られくるが、その中で「やってよかった」という満足感が得られていた。1年間を見通した活動内容や時期を考慮していくことが重要であると言える。来年度は、「代表委員会手帳」も年度初めから有効に利用していきたい。

## VI 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

特別活動の目標に迫るため、特別活動部会では、現代の子どもたちの人間関係の実態に着目した。すなわち、子どもたちの人間関係が家庭や地域において希薄化しており、このことが入学後の集団生活にさまざまな影響を与えていると考えられることから、自らを律し、他と協調し、思いやる心などを育てる集団活動について、低学年から発達段階に応じて継続的、発展的に指導する方法を工夫した。低学年から、子ども達の生活基盤である学級生活における身近な問題を協力して解決していくという体験を積み重ねることで、問題解決の仕方、集団活動の進め方等を自ら身に付け、高学年では、学校全体を視野に入れ、異学年児童で協力して問題解決を進めることができるようにしたいと考え、学級活動及び児童会活動について研究した結果、特に重要な点と具体的な手だてを以下にまとめた。

- (1) 入門期から、楽しい集団活動との出会いの場を設定し、集団の一員としての自覚と実践的な態度を育成していくことが重要である。

集団活動の体験が少ない第1学年の児童にとって、やってみたい活動を直ちに見出すことは難しいと考える。みんなでやってみたい、もっと楽しくやりたいという意欲をもつためには、楽しい集団活動と出会う場や機会を意図的に設定し、共に活動することの楽しさに気付くよう工夫した。

- (2) すべての子どもに集団における話し合いの進め方が分かるよう工夫し、自分たちで話し合いを進め、運営しているという気持ちを育てることが重要である。

低学年では、話し合い活動をみんなで進めようとする意欲をもたせるため、クラス全員でテーマ曲を歌ったり、学級会グッズを工夫して、役割が互いにはっきりするようにしたり、「話し合い進め方カード」を作成し、みんなが自信をもって司会等の役割をもてるようにした。また、振り返りの時間を必ず設定した。このような手だてを、中学年、高学年へと発達段階に応じて工夫するとともに、教師の支援も工夫した。児童会活動においては「代表委員会手帳」を工夫し、異学年児童が協力して進められるようにした。

- (3) 集団生活をよりよくするための生活上の問題に、子ども自ら気付くよう工夫し、学級や学校生活の充実と向上を目指して取り組む態度を育てることが重要である。

集団生活をよりよくするための問題に気付き、自ら議題を広げようとする態度を育てるため、議題にできる範囲を示しながら、体験や各教科等の学習、情報等から、子どもたちの興味や関心を耕し、議題を見出す場や機会を設定した。児童会活動では、アンケートを工夫し、全学級、全校児童の考えを広く確実に把握できるようにした。

### 2 今後の課題

話し合いの進め方や決め方について、今後も実践を積み重ね、学級の実態に合った方法をさらに検討する。